

# 經濟論叢

第十四卷 第六號

---

故名譽教授神戸正雄博士遺影および筆蹟・原稿

統計学＝社会科学的認識手段論の  
問題点……………大 橋 隆 憲 1

資本主義の運動法則における  
論理的なものと歴史的なもの(二)…吉 村 達 次 17

急速稅務減価償却をめぐる  
所得稅會計の保守主義……………高 寺 貞 男 37

ヘンリ・ジョージについての考察…北 沢 康 男 55

ソースタイン・ヴェブレンに関する  
一研究……………中 山 大 68

神戸正雄先生による  
再保險特約方式の輸入……………佐 波 宣 平 85

**記 事**

神戸先生御逝去 ……………91

追 憶 文 ……………96

新村 出 井藤半弥 本庄栄治郎 小島昌太郎  
石川興二 嶋川虎三 大谷政敬 小山田小七  
堀江保蔵 島 恭彦 松井清

---

昭和三十四年十二月

京 都 大 學 經 濟 學 會

思い悪い益々自責の念にかられ、思い悩んでいる有様である。

先生は学問研究上はもとより、私事、例えば就職、転任等についても、積極的にああしろこうしろと指図されることは極めて稀れであった。然しこれは決して私共後進者に対して冷淡であつたこと意味しない。事實は却つて反対で、先生は後進者の研究にも、私事に就いても、実に暖い思いやりと、細心の御注意とを以つて、常に留意せられ指針を与え又輔導せられた。例えば、私は以前には拙文を草してよく先生に見て頂いていたが、その際には、種々御批評御叱正を受けたことは勿論であるけれども、返えされた拙文には、略字の誤り、かなづかい、送りがなまだが一々指摘して訂正されて居るのを常とした。これには全く私は赤面し恐縮した。私自身が学生のものを見る立場になつて、このことが容易なことのように見える易ならぬこと、始めて知つた次第である。これは全く先生の後進者指導の御熱意と御厚情の一端の現われである。

又例えば、私が始めて奉職したのは和歌山高等商業学校であつたが、同校に赴任して間もなく、御挨拶のため先生を京大の研究室に訪ねたことがある。その時、先ず私が一応の御挨拶を述べたところ、先生は真先に、月給はいくらか、それで生活が出来るか、と問われ、その返答の後普通のお話にうつられた。

これは通例なかなか出来ぬことで、私などは自分の演習指導を受けて卒業したかつての学生が訪問して来ても、話の途中で問

## 恩師神戸先生の追憶

小山田小七

恩師神戸先生の御赴報に接した時、私は全く茫然自失、突如心の中に空洞が出来、休が一時に半ば崩れたように感じた。そして時が経つにつれて悔恨、慙愧を痛感し、徒らにあれこれと

うことがあったり、又問わない場合も多い。先生がいれば開口一番この質問をなさったと云うのは、全く私の生活について、独り立ちの生活をなし得るか知ら、と云う親心の心で常に意にとめて居られたのであると思う。今尚、その時のことは昨日のことのように思えるし、その御厚情には感謝の言葉もないのである。

尚、先生の学問上の貢献や公的諸活動の功績については、私は申し述べる資格を全く持って居らないが、只一つ、今度先生を御訪ねしたら申し上げたいと思うて居たことがあった。先生の学問は経済学の全分野に亘り甚だ広汎であるが、その重心は財政学、就中租税論に置かれて居られたように思われる。ある時私が先生に、先生の租税各論は細大漏さず行きわたり過ぎて居るから、後進者には研究の余地が残されて居ない。それだから私は困ると云うようなことを申し上げたのをきっかけとして、いろいろ各税のお話を承った。たまたまその頃、某地方で妾税設定の意図があるよし新聞紙上で散見された。それを私が話題にした。実はこのような突飛な奇異な税まで持ち出して、お尋ねすることの出来る先生であった。ただこの税の史実に就いては十分に教えてもらえなかった。その後、この税が昔、洋の東西で存在して居たことを私は発見した。この次の御面接の機会には是非、妾税の歴史を話題としたいとひそかに楽しみにして居たのであるが、今や永久にその機会は求むべくもない。

私の今日あるのは全く先生の御蔭であるに拘らず、何一としてその御恩に報ずることのないのは勿論、折々の御伺いもせず長年月を過したことは何としても申し開きの出来ないことで、只管に自らを責むるの外ない。

ここに追憶の一端を草して、恩師神戸先生の御冥福を祈念いたす次第である。